

令和3年6月5日

予備試験・R4最終合格戦略会議

～R3短答は色々あって本気出せなかつただけ～

TAC/Wセミナー講師
弁護士 御堂地 雅人

1 短答式試験データ

実施年度	受験者数	合格者数	合格率	採点対象者平均点	合格点	合格者平均点	一般教養平均点
2011年	6477人	1339人	20.6%	130.7点	165点	187.4点	23.2点
2012年	7183人	1711人	23.8%	134.7点	165点	184.1点	27.2点
2013年	9224人	2017人	21.8%	139.5点	170点	185.3点	25.2点
2014年	10347人	2018人	19.5%	137.3点	170点	185.7点	31.5点
2015年	10334人	2294人	22.1%	138.7点	170点	187.5点	28.1点
2016年	10442人	2426人	23.2%	134.6点	165点	181.5点	24.3点
2017年	10743人	2299人	21.3%	130.0点	160点	174.9点	24.5点
2018年	11136人	2661人	23.8%	131.1点	160点	177.7点	27.9点
2019年	11780人	2696人	22.8%	133.8点	162点	177.0点	24.7点
2020年	10608人	2529人	23.8%	128.8点	156点	173.7点	24.3点
2021年	11717人	2723人	23.2%	132.0点	162点	178.7点	24.9点
過去11年間の平均点				133.7点	164点	181.2点	25.9点
過去11年間の平均点（法律科目のみ）				107.8点	138.1点	155.3点	—

→採点対象者平均点のゾーンは合計得点130点～139点（1つ目の壁）

→合格点ゾーンは合計得点160点～170点（2つ目の壁）

→合格者平均点ゾーンは合計得点174点～188点

2 成績・学習状況別の対策

(1) 合計得点100点以下の方へ

皆さんは、とにかく短答過去問を解いてください！！おそらくまだ予備短答過去問も1周していないか、していたとしても軽く流しただけではないかなと思います。とにかく問答無用で頭に入れてください。今ならなんでも栄養になります。条文・判例知識

が少なすぎると、条文を検索・発見して解釈・適用するという論文の勉強にも支障があるので、まずは、予備の短答過去問だけでも早急につぶしてください。なんとなく論文の勉強を続けても、短答の成績が合格レベルまであがることは期待できないので、1年以上勉強をしていてこのゾーンにいる場合、短答対策を重視しましょう。

(2) 合計得点 101 点～129 点前後の方へ

皆さんは、努力はされていると思いますが、まだ「1つ目の壁」の表面に到達できていません。勉強を始めて1年未満だったり、社会人で仕事や家事などが忙しくて勉強時間がとれなかったりして、勉強に本腰をいれることができない方もいるかと思います。

そのため、まだ、ご自身の中で「もっとできるのに」と余力を感じているかもしれません。しかし、そのまま勉強の成果が感じられない状況がつづくのが一番しんどいですから、早め早めに手を打った方がいいです。例えば、このゾーンにいる皆さんで、可処分時間が1日1時間もとれない方は、論文と短答の二兎を追うことは現状危険ですので、短答の勉強に集中して成果を上げるとよいです。「もっとできるのに」という気持ちが維持されているうちに成果を出して「ほらできた」と思えるサイクル、これが大切ですから、そのサイクルの中で自分をうまく成長させてください。

(3) 合計得点 130 点～139 点前後の方へ

皆さんは、「1つ目の壁」の中にいます。採点対象者平均点のゾーンなので改めて「壁」というには大げさを感じるかもしれません。しかし、予備試験受験生には、学生から社会人まで難関大学合格者が多いため、受験勉強において努力することが得意な人が多いこととなります。そのため、この平均レベルも高くなってしまいますから、普通に頑張っているだけでは、このゾーンを突破できない方がでてきます。

まず、まだご自身の中に余力が残っていると感じる方は、既にこのゾーンまでたどり着いた実績があるので、これまでの経験を信じて突き進むのが良いです。そして、短答過去問については予備試験のものだけでなく司法試験のものもつぶしましょう。5月の本試験日までに正答率 100%になるのが目安です。

他方、ご自身の勉強に限界を感じている方は、自分の勉強方法に何かよくない点がないか合格者等に相談すると良いです。特に、予備試験・司法試験の短答過去問の正答率が既に約 100%なのに、連続してこのゾーンで不合格の方は、短答の勉強はしているものの、それを通じて法律の学力が向上していないという良くない状況にあると想像されます。原因究明を急いでください。

(4) 合計得点 140 点～160 点前後の方へ

皆さんは、「2つ目の壁」の突破、合格の目前でした。もしかしたら過去に合格されたことがある方もここにはいるかもしれません。毎年このゾーンで不合格を続けているの

でない限り、短答対策に大きな問題はないでしょうから、年内は論文メインで勉強を進めてください。

今年は、論文本試験が7月10日、11日にあります。短答に合格した体で、短答合格者と同じペースで、まずは、論文本試験当日までを目安に論文の勉強を頑張ってください。そして、可能なら本試験翌日ごろに法務省ホームページで論文試験問題が公表されるので、それを利用して、答案作成や答案構成を時間を計って行ってください。確かに、本当に論文を受験する人のように集中することはできないかもしれませんが、しかし、約2700人の論文受験者のほとんどは、10月上旬の論文合格発表までの3か月間は全く勉強に身が入らない状況になります。そして、そのうち2200人以上はおそらく論文に不合格となります。皆さんは、この2200人の人たちの10月上旬時点の学力に、10月上旬時点までに追いつくことがR4で最終合格する前提となります。つまり、この6月から10月上旬までの約4カ月で論文の実力を向上させることが最重要となります。皆さんは、たとえ身が入らなくても論文本試験までは何とか頑張って論文対策をしてください。そしてR4のライバルが身の入らない生活をしている10月までそのまま走ってください！

3 過去問知識の利用法（予備試験刑訴法R3-21を解く）

〔予備試験刑訴法H23-20（司法試験H23-30）〕

次の【事例】は、甲に対する殺人被告事件の冒頭手続における法廷でのやり取りである。この法廷でのやり取りに関する後記アからエまでの【記述】のうち、正しいものは幾つあるか。後記1から5までのうちから選びなさい。

【事例】

裁判長「それでは開廷します。被告人は証言台の前に立ちなさい。」

裁判長「名前は何と言いますか。」①

被告人「甲と言います。」

裁判長「本籍、住所はどこですか。」

被告人「本籍は、H市I町1番です。住所も同じです。」

裁判長「職業は何ですか。」

被告人「無職です。」

裁判長「生年月日はいつですか。」

被告人「昭和30年1月1日です。」

裁判長「それでは、検察官、起訴状を朗読してください。」

検察官「公訴事実。被告人は、平成20年6月10日ころ、H市I町1番被告人方において、Vに対し、殺意をもって、持っていたナイフでその胸部を突き刺し、よって、同日ころ、同所において、同人を胸部刺傷に基づく失血により死亡させて殺害したものである。罪名及び罰条。殺人。刑法第199条。」②

裁判長「被告人には黙秘権という権利があります。被告人は終始沈黙し、又は個々の質問に対し陳述を拒むことができます。また、言いたいことを言うことができますが、この公判廷での被告人の陳述は、被告人にとって不利益な証拠とも利益な証拠ともなることを承知してください。」③

裁判長「それでは、まず被告人に聞きますが、今、検察官が述べた内容に間違いありませんか。」

被告人「間違いありません。」

裁判長「弁護人、御意見はいかがですか。」④

弁護人「被告人と同じです。」

裁判長「それでは、これで冒頭手続を終わり、証拠調手続に入ります。」

【記述】

ア. ①は、裁判長が、被告人として出頭している者が起訴状に表示された者と同一であるかどうかを確かめるために行った質問の一環であり、こうした人定質問を行うことは法令上要求されている。

イ. ②は、法令上、検察官が、裁判長の訴訟指揮に基づき、起訴状に記載された公訴事実を要約して告げる方法でも行うことができる。

ウ. ③は、裁判長が、被告人に対し、言いたいことを言うことができることや、公判廷での陳述が被告人にとって不利益な証拠とも利益な証拠ともなることを告げなくても、法令に違反するものではない。

エ. ④は、裁判長が、その訴訟指揮によって、弁護人の意見を確かめるために事実上行ったものであり、法令上要求されているものではない。

1. 0個 2. 1個 3. 2個 4. 3個 5. 4個

〔予備試験刑訴法H25-21〕

刑事事件の通常の第一審公判において行われる次のアからオまでの各手続を先に行われるものから時系列に沿って並べた場合、正しいものは、後記1から5のうちどれか。

ア. 弁護人の弁論

イ. 検察官の冒頭陳述

ウ. 人定質問

エ. 黙秘権等の告知

オ. 起訴状朗読

1. オエウイア 2. オウエアイ 3. オウアエイ 4. ウオエイア
5. ウエオイア

〔予備試験刑訴法R3-21〕

公判前整理手続に付された刑事事件の第一審公判において行われる次のアからオまでの

各手続を先に行われるものから時系列に沿って並べた場合、正しいものは、後記1から6までのうちどれか。

ア. 黙秘権等の告知並びに被告人及び弁護人の陳述の機会

イ. 弁護人の冒頭陳述

ウ. 公判前整理手続の結果の顕出

エ. 起訴状朗読

オ. 検察官の冒頭陳述

1. ウアエオイ 2. ウエアオイ 3. ウオイエア 4. エアウオイ

5. エアオイウ 6. エオアイウ

以 上